

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和元年(2019年)

6-7月号

(通巻 182号)

2019年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ヤマトオサガニ
潮が引いた干潟は、まさにカニ天国。
一面に広がるヤマトオサガニは壮観で、
写真ではとても表現しきれません。

P1 ☀️ いきもの写真館
ヤマトオサガニ

P2 / 3 ☀️ 明治時代の地形と土地利用
曾谷台

P4 ☀️ いちかわの植物 30年
ウマノアシガタ・イチヤクソウ

P5 ☀️ 街かど自然探訪
湊新田・行徳駅前公園

☀️ くすのきのあるバス通りから
アシナガバチの巣

P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
カロリナハコガメ のぼる、おちる

P7 ☀️ わたしの観察ノート
3月～4月の記録

P8 ☀️ 行事案内

博物館だよりはホームページでもご覧いただけます。

明治時代の地形と土地利用

曾谷台

曾谷台は、曾谷地区の台地の呼び名です。ただ実際は、曾谷から松戸市の高塚新田、紙敷地区を経て、大町、大野町まで続いています。なので、曾谷台という言い方では、実際をうまく言い表せていないかもしれません。

曾谷台の広がり

右ページの図は、1880（明治13）年の地形図に、土地利用ごとに着色をした土地利用図です。曾谷台の範囲だけを切り抜きました。「曾谷台」という呼び方は旧版の市川市史で用いられましたが、実際は言葉の印象よりも大きな台地です。なので今回は、やや広い範囲で切り抜きました。着色されていない松戸市域の範囲も含めると、台地が大きな広がりを持っていることがわかります。

畑があった場所

図中、「畑」と書かれた場所は大きく3か所あります。図の①②③で、①が曾谷・宮久保地区、②が松戸市の高塚新田・秋山・紙敷地区、③が大野町地区です。これらはいずれも台地にあたる場所です。台地上に畑があることは、前回取り上げた国分台と同様です。

広がる林

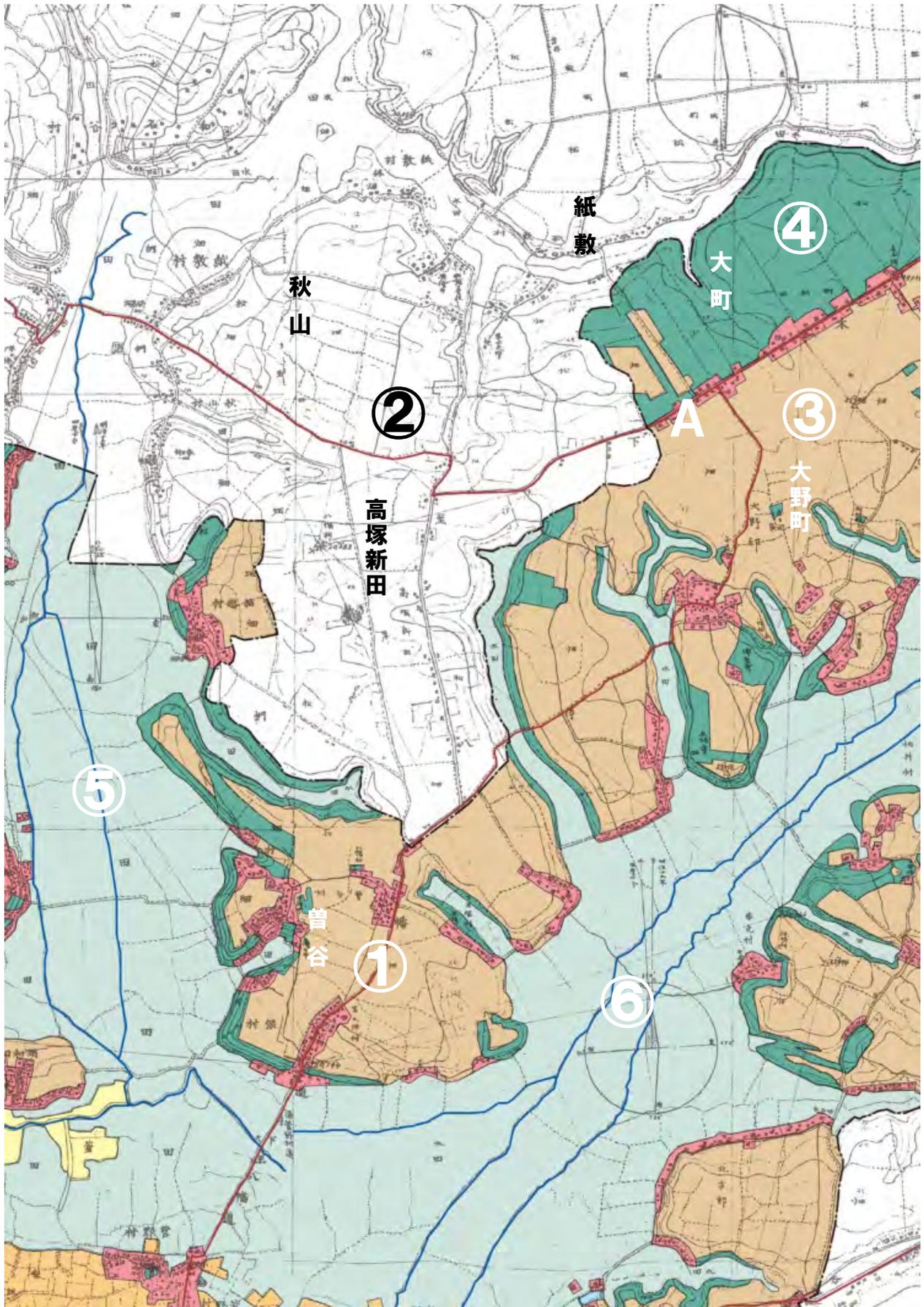
図の④は林を示しています。大町地区の街道（図中A。いまの国道464号線「梨街道」）の北側です。文字を読み取ると「松」と書いてあります。林の範囲はさらに北側の松戸市域にも続いている、こちらにも「松」が多く、一部に「櫨（くぬぎ）」と書かれた場所があります。市川市域の林は、明治時代にはすでに大半が斜面林でしたが、大町地区では平坦な台地上に広い松林が広がっていたことがわかります。

田の範囲をたどってみる

田は低地、畑は台地にあり、台地から低地へは一気に下る斜面で、そこに林（斜面林）があります。土地利用図の見た目では、畑の範囲を林が縁取っているように見えます。斜面林の縁取りを意識して田の範囲を見てみると、2方向の広がりがわかります。図の⑤で示したところが国分谷、⑥が大柏谷で、それぞれ国分川、大柏川が流れています。水は川沿いの低地に集まりますから、そこに田んぼが広がるのは当然です。ここで⑤の谷を北の松戸市側にたどっていくと、「紙敷村」と書かれた場所で東（図中では右）に細く枝分かれしています。この谷はいまの北総線大町駅付近まで延びていて、大町公園の長田谷津まで数百メートルの位置で終わっています。長田谷津は⑥の大柏谷から枝分かれした谷ですから、もし両者がつながっていたら曾谷台は谷に取り囲まれた島のようにもなっていたかもしれません。

まとめ

①②③は台地（曾谷台）で土地利用は「畑」、④も台地で土地利用は「林（おもに松）」、⑤⑥は低地（国分谷、大柏谷）で土地利用は「田」です。台地の畑と低地の田の境は斜面になっていて、林が縁取りのようにあります。また、⑤の谷と⑥の谷は枝分かれした谷が接近して、曾谷台を取り囲んでいます。



1880（明治13）年の曾谷台の土地利用図 市域外は着色していません。
 「市川市史自然編 都市化と生きもの」P47 図2-2-3より一部抜粋して使用

いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

ウマノアシガタ

ウマノアシガタは、里山にふつうなキンポウゲ科の山野草です。5 枚の黄色い花弁に光沢があるところが、いかにもキンポウゲ科です。

里山にふつうといいながら、市川市域では少なく、これまで柏井町での写真の株しかお目にかかっています。牧場のような草原に多いため、宅地開発が進んだ市川市域では生育環境そのものがありません。

野草の宝庫・成東食虫植物群落ではふつうに群生していました。



ウマノアシガタ(1986 年 5 月 10 日)
柏井町 4 丁目の雑木林

イチヤクソウ

野趣に富む山野草です。3 月から 5 月という山野草のベストシーズンから外れ、6 月の梅雨時に開花期を迎えます。じめじめしてやぶ蚊の襲来を受ける時期、なかなか林に入る勇氣はなく、観察しやすい場所に株があるとうれしくなります。葉が常緑なので、冬に林に入ったときに存在に気づくことの方が多くありました。

土を選ぶので、生えている場所は限定的です。写真を撮影した国府台では見かけなくなりましたが、市内のほか

の場所では健在です。どちらも、変化があまりない林です。いつまでもひっそり咲き続けてほしい花です。



イチヤクソウ(1986 年 6 月 19 日)
国府台 4 丁目の雑木林



街かど自然探訪

おじゃまします!

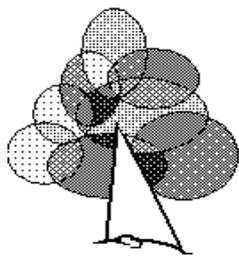
みなとしんでん

湊新田・行徳駅前公園

真夏の予報が出ている日、行徳駅前の商店街を抜けて、公園のケヤキの木陰に入ると、ひんやりとした空気になりました。公園の木々を順番に見てゆくと、コナラやクヌギが植わっているエリアに、ヒメユズリハがありました(ちゃんと名札がついていました)。枝先に蕾が固まってついています。調べてみたら雄花のようです。実も楽しめるようですが、一本しか見当たりませんでした。街中の公園には、時々ちょっと変わった植物が植えられているので、見つけると楽しいものです。



△ ヒメユズリハ 雄花のつぼみ(ユズリハ科)
輪状に、花びらのように並んでいる粒々一つが一つの花(まだ開花していない)。それがいくつが集まって花束のようにになっている。



くすのきのあるバス通りから No.124

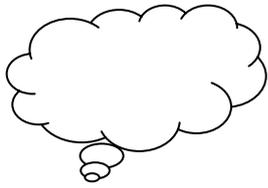
アシナガバチの巣

5月4日、真間川の八方橋の北方側の空き地に、ヤセウツボが出てきました。かつて、庭に生えていたものは、一年で出てこなくなりました。ここのは、大きく、寄生するシロツメクサもたくさんあります。枯れた草のような茶色なので、気づく人がいるかどうか…。

4月7日、自宅二階のベランダに一匹のアシナガバチがいました。4月20日、娘が布団を干そうとしたのですが、ハチが巣を作っていたので、やめました。

6部屋できていました。5月18日、19部屋に増えていて、中には幼虫が動いていました。ハチは近づくと巣の後ろに隠れてしまい、攻撃性は低いようです。昼間は幼虫のエサの調達に出ているようです。夜や雨の日は巣の上にあります。自然博の方に聞くと、「女王蜂ですね、今いる幼虫は働きバチになり、これから増えていきます」とのこと。娘は「見守る」といい、インターネットでアシナガバチを検索していました。

(M. M.)



展示室

No.26

飼育生物の話題



カロリナハコガメ のぼる、おちる

博物館では、ニホンイシガメ、カロリナハコガメ、マレーハコガメを飼育展示しています。カロリナとマレーは、保護された個体です。長く水槽だけでの飼育でしたが、大型犬用のゲージを譲っていただいた機会に、3階の屋外展示場に放飼場を設けました。特にマレーハコガメは甲羅がうまくはがれずガサガサだったので、日向ぼっこできる環境ができたのは良かったです。

初めて日向ぼっこをさせた時、まずはお互いの相性を確かめました。3匹同時だと見た目にも楽しそうだったからです。結果は、イシガメとマレーは問題なく相席できました。カロリナはだめで、イシガメと合わせてみたら、すかさずイシガメの甲羅に乗り、引っ込んだイシガメに噛みつこうとする好戦的な態度でした。その結果、カロリナは単独の日光浴となりましたが、思わぬ芸を見せてくれました。のぼるんです・・・ 写真を見ていただければわかるとおり、ゲージの角を上へ上へのぼります。1m近くまでのぼることも多くありますが、最後はあえなく落下です。敷き詰めた人工芝でひっくりかえっても何食わぬ顔です。

水槽の時も、気が向くと人を追って駆け回る愛嬌者でしたが、屋外でもみせてくれました。そのうち動画にして公開したいと思います。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・青空をバックにタカが飛んでいました(4/6)。時期的にオオタカだと思い双眼鏡を覗くと、予想に反してハイタカでした。4月に入ってからハイタカを観察するのは珍しいです。

稲村優一(自然博物館)

◆国府台緑地より

- ・地元の人たち向けに開いた観察会で4月16日に見つけたスマレを紹介したら、群生している場所がほかにもありますと案内していただきました(4/20)。大きな切株があるその場所では、確かにスマレ(種としてのスマレ)が群落になっていました。近くの畑と小道の間に群生していたものが、大きな木を切って明るくなったその場所に移って増えたそうです。樹林が斜面の崩落などで崩れた跡地にはスマレ類が群生することがあります。崩壊地植生と言いますが、それと同じメカニズムですね、と解説しました。

◆大柏川第一調節池緑地より

- ・アリアケスマレが咲いています、と教えていただいたので見に行きました(4/9)。3月30日に確認したノジスマレの花は終盤で、かわりにアリアケスマレが一面に咲いていました。市内ではなぜか出会うことがなかったスマレなので、うれしかったです。

以上 金子謙一(自然博物館)

◆堀之内貝塚より

- ・アマナが蕾をつけていました(3/13)。あちこちに咲き始めました(3/20)。今

年はいくらか早いようです。

谷口浩之さん(北国分在住)

◆真間山より

- ・南側の斜面林で、ウグイスの鳴き声をききました(3/6)。まだちょっとぎこちない声でした。
- ・弘法寺境内にある太刀大黒天の小さな池のそばでアズマヒキガエル(10cmくらい?)、あたたかさに誘われたでしょうか(3/7)。
- ・あたたかい日ざしの中、南側斜面林下の草原で、スジグロシロチョウ、キチョウにまじって、ウラギンシジミ(メス)がとんでいました(3/20)。
- ・南側の斜面林で、今年のはじめてのアゲハチョウを見ました(4/20)。季節がまたひとつ動いた気がします。

◆真間川より

- ・真間小学校近くで、ツバメが飛びまわっているのを見ました(4/3)。寒の戻りのあと、少し暖かさが感じられた日でした。

◆市川より

- ・市川広小路近くの国道14号の上をツバメが2羽飛んでいました(4/14)。道路に面したお宅のシャッターのすき間を出入りしていました。巣があるのでしょうか。

以上 M.T. さん

天気は周期的に変わり、冷たい雨の冬と暖かな春が行きつ戻りつしました。歴史博物館前のソメイヨシノは、3月20日には咲いていました。



行事案内



おやこ自然観察会

お申し込みが必要です。

水辺の生きものを自分たちで捕まえて観察します。

おやこで楽しめる自然観察会です。

- ・場所 自然観察園
- ・時間 午前10時～12時
- ・定員 各回とも、先着 親子20組
親子対象です。

日にち	受付開始日
-----	-------

7月14日⑩	6月15日より
--------	---------

8月11日⑩	7月20日より
--------	---------

お申し込み方法

受け付け開始日以降に
往復はがきに参加者全員の
住所、氏名、年齢、電話番号、
返信面に返信の宛先を明記の上、
下記までお申込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地
自然博物館「O月観察会」係まで

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日時 7月6日⑩、8月3日⑩、9月7日⑩、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日時	集合場所
-----	----	------

初秋の江戸川土手	9月22日⑩午前10時～11時30分	里見公園正門 午前10時
----------	--------------------	--------------

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備 をお手伝いして下さいませんか。

(雨天中止)

- ・日時 6月30日⑩、9月29日⑩、(7月・8月はお休み) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けを
お手伝いして下さいませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日時 7月7日⑩、8月4日⑩、9月8日⑩、
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、
博物館までお電話でお問い合わせください。

第31巻 第2号 (通巻第182号)

令和元年6月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477